

履修制限について（立命館大学で履修できない科目一覧）

*立命館大学の各学部が以下記載しています。

¹通年とは、春セメスターと秋セメスターの1年間を意味します。

全学部共通制限科目 (履修不可科目)	① 全学副専攻外国語コミュニケーションコース…受講不可 ② 教職課程科目 ③ 外国語科目 ④ 留学生対象の日本語科目 ⑤ ¹ 通年科目(通年在籍学生は可能)、小集団科目等の演習科目(学部により一部可能)、夏期集中科目(通年在籍学生は可能)、大学コンソーシアム単位互換科目 ⑥ 所属学部で許可されている他学部受講科目以外の他学部科目 ⑦ 留学プログラム(海外スタディ、異文化理解セミナー等) ⑧ インターンシップ(全学インターンシップ等)
全学部共通制限科目 (一部制限のもと履修可能科目)	教養科目:原則として受講可。ただし、受講登録方法が、抽選科目登録もしくは選考科目登録となっている授業は、定員が設定されているため、正規生の受講登録の結果、定員に空きがある場合のみ受講可。
以下 各学部独自制限科目	
法学部 (学修要覧)	・専門科目…原則として各科目の配当回生に従って受講できる。 <u>ただし、下記科目は受講不可。</u> 「社会に生きる法」(1回生配当) 演習科目(「特修〇〇法」などを含む) 実習関連科目(「公共政策実習」・「法務実習」等) ※ 法学を初めて学修する学生は、1・2回生以上配当の基礎的な科目を履修することを推奨。 ※1年間留学する学生は履修相談を踏まえ、専門演習ⅠⅡ・卒業研究を除く演習科目についても、選考の上、受講を認める場合があります。
経済学部 (学修要覧)	原則として全ての科目の受講を認める。ただし、選考科目および抽選科目は定員に空きがある場合のみ受講可能とする。また、半年間留学する学生は、演習科目の受講は不可とする。(1年間留学する学生は履修相談の中で受講を認める場合もある。) 「リクワイヤード経済学Ⅰ」「リクワイヤード経済学Ⅱ」は受講不可とする。
経営学部 (学修要覧)	原則として全ての科目の受講を認める。ただし、選考科目および抽選科目は受講できない場合がある。 ・ 半年間留学する学生は、「専門演習」が受講不可。(1年間留学する学生は、選考の上、受講が可となる場合があります。) ・ 「ビジネスレポート」は受講不可。 ・ 「プレゼミ」は選考の上、受講が可となる場合があります。

産業社会学部 (学修要覧)	通年開講科目 ・ 基礎演習Ⅰ・Ⅱ:受講不可 ・ プロジェクトスタディⅠA・ⅡA:担当教員が受講を許可した場合に限り受講を認める。 ・ 企画研究:担当教員が受講を許可した場合に限り受講を認める。 ・ ゼミナールⅠ・Ⅱ:担当教員が受講を許可した場合に限り、単位にはならないオブザーバー参加のみ認める。 ・ ゼミナールⅢ・Ⅳ・卒業研究:受講不可 ・ 資格取得の目的のために開講されている以下の科目:受講不可 ・ 子ども社会専攻の「教科教育」の科目と「実習科目」 ・ 社会調査士プログラム履修者のための科目 ・ 「社会調査士Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「社会調査情報処理」 ・ 社会福祉士課程のための科目 ・ 3 回生以上:「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」 ・ 2 回生以上:「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習」 ・ 外国語科目:受講不可。必修外国語(12 単位)は、部分的な科目の履修は認めない。 ・ 産業社会学部英語副専攻:受講不可 ・ グローバルスタディプログラム:「国際社会入門」のみ受講を認める。その他の科目は受講不可 ・ ソーシャルデザインプログラム:「ソーシャルデザイン入門」のみ受講を認める。その他の科目は受講不可 上記の他、一般講義系科目の受講を認める。
国際関係学部 (学修要覧)	・ 選考科目:受講不可とする。 ・ 専門演習以外の事務室登録科目:受講不可とする。 ・ 専門演習:受講時に 3 回生(在学第 5 セメスター目)以上であることを前提とし、定員に空きのあるクラスのみ事前に課題レポートを提出し選考の結果、受講を許可する。半期の交流学生で希望があった場合は、オブザーバーとしての半期の聴講を認める場合がある(成績評価および単位付与の対象とはしない)。この場合、担当教員が所定の志望理由書をもとに選考を行なったうえで、許可を得ることが条件となる。 ※選考科目、事務室登録科目等の分類については、時間割の備考欄を確認してください。

政策科学部 (学修要覧)	○履修不可科目 ・情報技法科目:政策情報処理 ・グローバル言語科目 ・政策科学科目:政策科学入門、基礎演習、プロジェクト入門、実習科目、演習科目 ただし「研究実践フォーラムⅠ・Ⅱ(2回生)」、「政策構想演習Ⅰ・Ⅱ(3回生)」は、担当教員の許可を得た場合のみ受講可 ○一部制限のもと履修可能科目 ・政策英語科目:正規生の受講登録の結果、定員に空きがある場合のみ受講可 ・抽選科目:正規生の受講登録の結果、定員に空きがある場合のみ受講可 ・CRPS 専攻(英語基準)の科目は、受講申請前に、事務室に相談すること
文学部 (学修要覧)	○受講可とする科目 ・基礎科目(一括登録科目のみ受講不可。抽選・選考科目は定員に空きがある場合のみ受講可) ・文学部生全員が受講できる専門科目(抽選・選考科目は定員に空きがある場合のみ受講可) ○受講不可とする科目 ・文学部の各学域・専攻の学生のみ受講できる専門科目 ※但し「基礎講読Ⅰ・Ⅱ」と「専門演習Ⅰ～Ⅳ」については、事前申請の上で許可されれば受講可。申請の際は必ず受講を希望するクラスをシラバス等で特定の上で申請すること。 ・実習科目、人文学特別研修 英語アドヴァンスト・コース科目群 ・教職課程科目、学芸員課程科目、図書館司書課程科目、学校図書館司書教諭課程科目
スポーツ健康科学部 (学修要覧)	・全学部共通履修制限科目に加えて、下記科目を受講制限科目とする。 ○プロフェッショナル・キャリア形成科目 (但し、スポーツ健康科学特殊講義Ⅱ「ハイパフォーマンススポーツの科学」は受講可) ○実習科目(コーチング実習科目・身体科学実習科目) ○キャリア形成科目のうち下記の科目 「サービスマーケティング(専門)」 「インターンシップ(国内)(海外)」 「クリニカル AT インターンシップ(国内)(海外)」 「インターンシップ(健康運動指導士実習)」

	○特殊講義のうち下記の科目 「スポーツ健康科学特殊講義Ⅱ」 ・定員の定められた科目に関しては、定員に空きのある場合に受講を認める。 ・学部小集団科目である「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「PBLⅠ」「PBLⅡ」に関しては、学部で受講クラスを決定して受講を認める。 同じく学部小集団科目である「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ」に関しては、1年間のプログラム学生の場合には、受講可能な基礎知識の有無や定員の空き等を勘案して受講可否を決定する。半期のプログラムの学生の場合には、オブザーバーとして聴講を認める場合がある(成績評価および単位付与の対象とはしない)。
理工学部 (学修要覧)	・選考科目および抽選科目は受講できない場合がある。 ・小集団科目、演習、実験、実習等定員の定められている科目は選考の上、受講可否を決定する。
総合心理学部 (学修要覧)	・全学共通履修制限科目に加えて、以下の科目を受講制限科目とする。 「リテラシー入門」 「プログラミング入門」 「心理学概論」 「総合心理学入門」 「心理学研究法」 「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」 「認知心理学概論(知覚・認知心理学)」 「発達心理学概論(発達心理学)」 「社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)」 「精神疾患とその治療」 「医学総論(人体の構造と機能及び疾病)」 「臨床心理学概論」 「公認心理師の職責」 「関係行政論」 「行動分析学(学習・言語心理学)」 「学習・記憶心理学」 「神経・生理心理学」 「思考心理学」 「認知行動療法論(心理学的支援法)」 「心理的アセスメント」 「障害者・障害児心理学」 「色彩論」 「乳幼児心理学」 「青年心理学」 「児童心理学」 「中高年心理学」 「発達臨床心理学」 「キャリア形成論」 「学校カウンセリング論(心理学的支援法)」 「経済と人間」 「福祉心理学」

	「行動経済論」 「国内フィールドスタディ」 「教育・学校心理学」 「組織行動論(産業・組織心理学)」 「実験社会心理学」 「コミュニティ心理学」 「司法・犯罪心理学」 「感情・人格心理学」 「文化心理学」 「健康・医療心理学」 「芸術療法論(心理学的支援法)」 「ナラティブ療法論(心理学的支援法)」 「家族療法論(心理学的支援法)」 「現代人間論」 「家族と人間」 「専門英語(心理学)Ⅰ・Ⅱ」 「心理調査法概論」 「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅷ」 「総合心理学特殊講義Ⅱ」 「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」 「臨床・実践演習(心理演習)」 「臨床・実践フィールドワーク(心理実習)」 「基礎演習Ⅰ～Ⅱ」 「展開演習」 「専門演習Ⅰ～Ⅳ」 「卒業研究」 「コンピュータ・リテラシー」 「国際フィールドスタディ」 「心理学実験演習Ⅰ」 「Global Psychology」 「Global Psychology (Online)」 「Introduction to Psychology」 「Introduction to Psychology (Online)」
--	--